



移

四万十市に 暮らす

LIFE IN SHIMANTO CITY BOOK
INTERVIEW



川とともに生きるまち



移住者インタビュー
四万十市

暮らす



CASE 1

まあ坊豆腐店 店主

志治 誠則さん



住所：高知県四万十市
中村大橋通6丁目6-25
電話：0880-34-8202
営業時間：10:00～18:00
定休日：日曜ほか不定休
<https://www.facebook.com/maboudofu/>

素材にこだわるが故に自然と無農薬や減農薬野菜を使うことが多いそう。地元産の野菜もたくさん使用されており、できたて寄せ豆腐やおからを使ったお惣菜など、身体が喜ぶ品々が存分に味わえる。本日のランチ。

機械の何倍も手間と暇がかかるという石臼での豆腐作り。素材の良さを引き立たせるための大切な道具である。

まあ坊豆腐店
facebook ページ



きつかけ

大阪に生まれ育ったまあ坊は料理人を志し、地元の料理専門学校卒業後、居酒屋で見習いとして働いていたが、その居酒屋のマスター(現・四万十市にある焼肉屋「竹亭」オーナー)が、四万十市(当時は中村市)へサーフィン移住・開業することになり、当時19歳だったまあ坊も付いていくことを決意した。

農業から豆腐作りへ

移住して暫くは、焼肉屋で働きながらサーフィンに明け暮れていたものの、徐々に田畑が多いこちらの風景にも感化され、地元農家の人も繋がり、農業にも興味をもつようになった。

焼肉屋・生姜農家で働きながら、地元の人に農地を借りて自分で作物を育てることに挑戦し始めたが、やはり『生業』にする難しさも感じていた。

「その時たまたま、荒地でも育つ大豆を育てていて、ふと、『豆腐にしてみよう。』と思いついたんです。」

「やってみたら思いの外面白くて、どんどんハマっていきました。気がつけば石臼も購入していました。(笑)」と、20代半ばを振り返る。

人生のパートナー

しかし現実、石臼豆腐一本だけではここでは暮らしていけない。仕事も掛け持ちしながら、農業から豆腐作りへ次第にシフトチェンジしていった。

その中で、自分なりの美味しい豆腐を追求し続け、美味しい豆腐ができれば、近所のおんちゃんおばちゃんに買ってもらうようになった。

そのうち、結婚して子どもを授かり「当時借りていた家を改装して、僕は豆腐を、嫁さんはパンを焼いて何とかやりくりしていました。その頃には、地元の飲食店にも使ってもらえるようにもなりました。」

美味しいと言ってもらえることが多くなり、奥さんが商売の勉強に通い始めたこともきっかけに、ちゃんとしたお店を持つという目標を持つようになった。

「それでも今振り返れば無謀だった。」と笑う志治さん。

「地元の銀行さんも、こんなウチら

によくお金を貸してくれましたよ。お店を始めたものの、商売に関しては何も経験がなかったので、始めてから数年は本当に大変だったけれど、今は、少しずつだけど成長できて、何とかお店も石臼も回せている。(笑)」

大変でも継続できるのは？

ここ、四万十市に居続けることについて聞いてみると、

「続けていられるのは、自分たちにはこれしかできない、という気負いがあるからかな。」

お店を続けていくことと同時に、息子の存在も大きいという。

「息子がまだ小さい頃にはそんなこと全然考えてなかったですけど、お



店始めて色々な人と繋がる中で、夫婦で、学校のPTA活動や息子が通う少年野球チームにも出来るだけ関わりながら、他の保護者さんたちが子どもたちのために、何を思っているのかをちゃんと知ろう。という姿勢に変わっていきました。お店と息子という存在が、この地に僕らの根を降ろしてくれているみたいです。」

今後の展望

お店も間もなく5年目。

『自分のやりたい事』と、『家族を支えるために自分にできる事は何か?』いつも葛藤の日々を送っている。悩みは尽きないけれど、ファンも着々と増え、チャレンジできる幅が広がっていく実感もあるという。何か一発当てる!というよりも、息の長い商売がしたい。顔を合わせられるお客さんひとりひとりを大切にしたい。丁寧に美味しい豆腐を作りたい。

情報もモノも早すぎる世の中の流れの中で、今日もまあ坊は石臼を回している。

四万十市
移住者インタビュー

暮らす



元地域おこし協力隊

CASE 2

戸田 やよいさん (旧姓：小森)



戸田さんが暮らす西土佐半家は、2012年に日本一暑い41度を記録した江川崎近くの地域。予土線の線路が横たわり運が良ければ、「トロッコ列車」やユニークな風貌の四国の新幹線こと「鉄道ホビートレイン」にも出会えるかも。



実はこんなに気持ちのいい場所で行った今回の取材。風も川の音もすべてが心地よい。
※車両通行止めの沈下橋で取材を行いました。



戸田さんの愛娘もインタビューに参加してくれた。愛嬌いっぱい笑顔で癒しいっぱいの空間に。地域のアイドルで道行く人に何度も話しかけられていた。

きっかけ

「良かったら一緒に沈下橋で」
「ー飲みませんか?」ご近所さんに
声をかける戸田さん。2015年に
東京から地域おこし協力隊として
赴任して以来、西土佐で暮らす彼女
だが、意外にも移住した理由は協力
隊がきっかけではなかったらしい。

「東日本大震災の後、移住地を探
していた際に、四万十川沿いでラフ
ティング会社の手伝いをしていた
時があったんです。その時すごく良
い所だなあと感じて。その後高知を
離れたんですけど、やっぱり四万十
川沿いに住みたいな〜ってずっと
思っていて。協力隊募集を知ったと
きは、『これは行くしかないー』と思
い、応募しました(笑)」

協力隊任期中 (移住後の生活)

協力隊任期中には、地域のおば
ちゃんたちを集めて女子会を開催

したり、地域の草刈りやお祭りなど
の伝統行事にも積極的に参加した
りしたそう。

実は、”シャイ”な地域の方々とは地
域の行事に参加することによって
距離を近づけたという。同じこと
を一緒にして、その後に一緒に飲む
(笑)。地元の方と仲良くなると移住
生活が倍楽しめるような気がしま
す。」



西土佐での生活

ご近所の方から手作りの無農薬
野菜をいただく事も多く、贅沢な
食事に幸せと身体の変化を感じて
いるという。「水も良くて。地域の方
がここの湧水良いよって教えてく
れるんです。」

また、四万十市で旦那さんと出会
い、子宝にも恵まれた。協力隊を退
任した現在も半家での生活を続け
ている。「子育てにはすごく良い環
境です。鳥の声、虫の声、川の音など
の癒しのBGMが自然と聞こえて
きて、四季もいっぱい感じられるん
です。ほんと半家最高ー! っ
(笑)」



今後の展望

半家の素材を使った加工品や、染
め物作り、季節の物を使った暮らし
をしたいという戸田さん。

今は野菜など地域の方から貰う
事が多いというが、地元の方の高齡
化も感じており、いずれは何かの形
でお返ししたいと話してくれた。

「地元の素材を使った加工品を作っ
てもいいです。同じように私も
野菜やお米を上手に作れるように
なれるかは分からないので(笑)」
半家での生活を満喫しながら子
育てを楽しむ。

自身が理想とする生活に向かっ
て着実に歩を進めている。



お菓子作りやパン作りが趣味の
戸田さん。手作りのクッキーと
コーヒーをいただきました。

暮らす

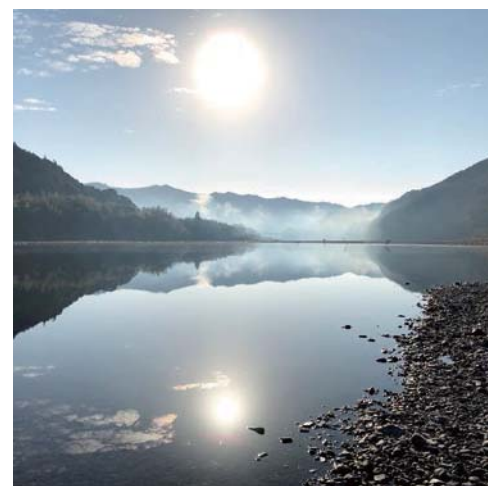
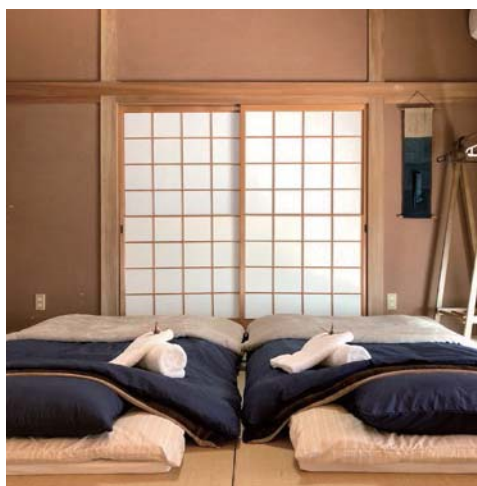
四万十市
移住者インタビュー



SHIMANTO RIVERSIDE HIDEWAY オーナー

CASE 3

中島 賢二さん



HP



Booking.com



住 所：四万十市高瀬 76
電 話：0880-49-0158
メール：email@shimanto-riverside-hideaway.com
ゲストハウスの詳細やご予約は、
左記の QR コードからチェック。

中島さんが撮影した、ゲストハウス周辺のお写真。日毎に変わる四万十川の様子や、周辺地域の豊かな自然を撮影し発信している。

Instagram



移住した きっかけ

昨年9月に四万十川沿いにゲストハウスをオープンさせた中島さん。オープン当初から人気の絶えないお宿だが、移住前は東京で10年ほど鍼灸師として働いていた。もともと愛媛県の出身ということもあり、通勤時の満員電車や人混みにだんだんとストレスを感じるようになってきたそう。「田舎に対しての憧れや良さを少しずつ分かったので、仕事を辞めるきっかけがあったので、それを機に地元に戻ることにしました。」



中島さんが手入れを行っているお庭。忙しいためなかなか手が回らないというが、庭での作業も楽しいひと時だという。

四万十市へ

実家のある愛媛県に戻り、興味のあった海外留学に行くことに決めた。それが大きな転換期となりゲストハウスを開業するきっかけになったという。「留学先のニューヨークは観光業がすごく盛んで、向こうもすごく田舎なのにカッコいい宿がたくさんあって。英語さえしっかり喋れば四国に戻ってもできるんじゃないかと思ったんです。」

帰国後、愛媛に戻り宿をするための候補地探しを始めたが、一番苦労したのは家探しだったと振り返る。「なかなか見つからなくて。だけど、候補地の一つであった四万十市は、連絡を取ってみるとすごくウエルカムな雰囲気。担当の方が僕の意向を汲んだ空き家を紹介してくれて、話がトントンって決まっていきました。」

ゲストハウスの 開業

ゲストハウス開業前には特別なことは何もしていないというが、地

域のお祭りの際には地元の方に宿の構想の話をした。また、宿泊客が、近隣地域を散策することもあるため、近隣地域で出会った地元の方にゲストハウスの説明をすることもあったという。「地元の方がびっくりされるといけないので、僕が住んでいない地域に関してはまずは僕が行って、出会った地元の方にお話をするつもりでした。」

生活の変化

自然に囲まれた景色の中での運転。混んでいない道路。思わずにんまりすることもあるそう。「どこに行くにしてもノンストレスで生活できますね。インスタグラムに写真をあげると、東京の友達に『この景色どこ?』ってうらやましがられます(笑)」

四万十市の魅力

「自然へのアクセスがめちゃくちゃ良い!マウンテンバイクを乗ろうと思ったら、ここならすぐ。サーフィンをやろうと思っても車

で30分ほどでいくらでもある。海山川がこの距離感であるっていうのはなかなか他にないのかなと思いますね。」

また、近所の、グセのあるおんちゃんたちも魅力のひとつだと言ってくれた。「ニューヨークにいた時に感じていた、いくつになっても自分たちの楽しみを見つけて楽しんでいる雰囲気。をここでも感じます。ポジティブな雰囲気が常にある感じがして、本当に気さくな方たちばかりで。僕もかっこつけなくていいし、自然体でいられます。」

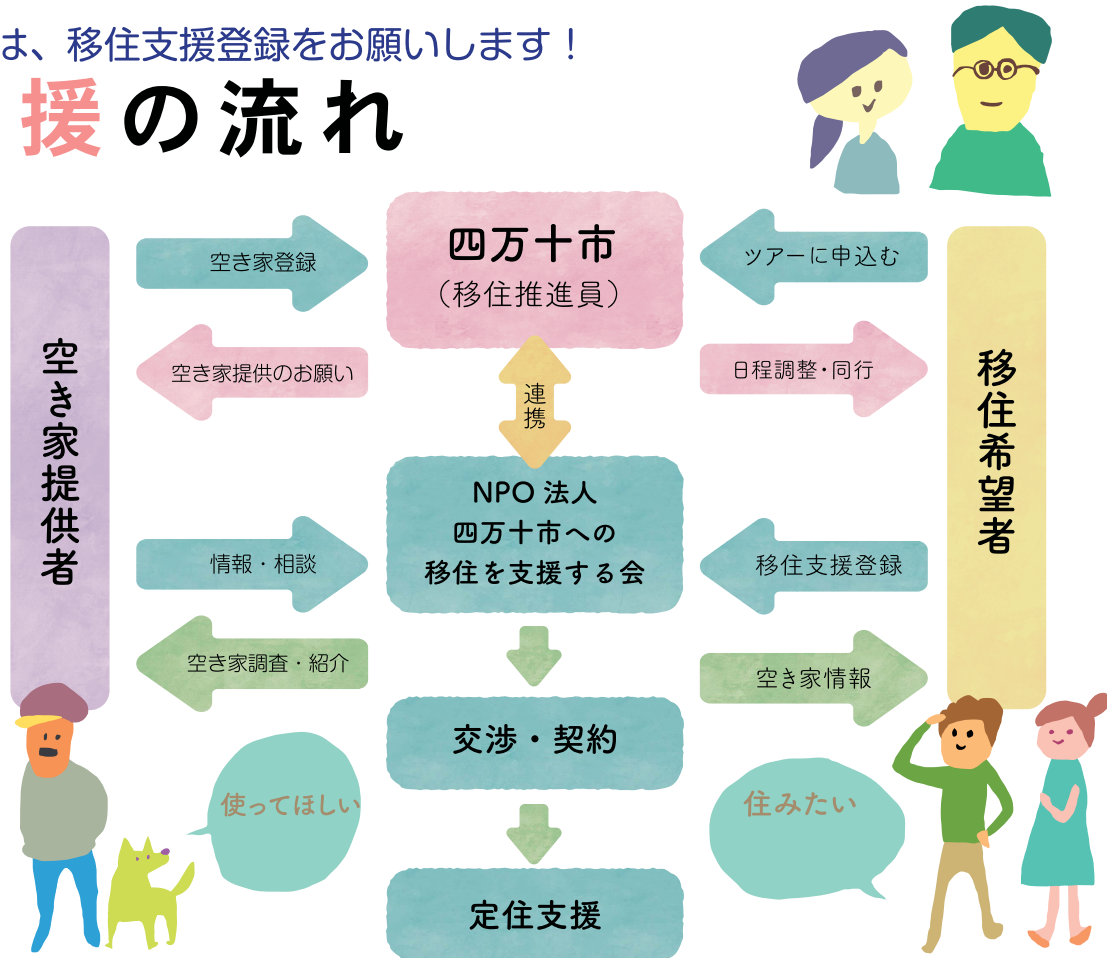
今後の展望

以前は色々な所に住みたいと思っていた中島さんだが、四万十市に来てそう思うこともなくなりました。「何かやろうと思えばできる余地がいっぱいあって、わくわくし続けますね。」

今は忙しくて手が回らないというが、今後は四万十市周辺で新たなコンセプトのお宿も手掛けたいという。四万十市を拠点に新たな目標に挑戦しようとしている。

まずは、移住支援登録をお願いします！

支援の流れ



移住までのステップ

step
01

移住支援の登録

ホームページ・郵送・お電話にて「[移住支援の登録](http://iju.city.nakamura.kochi.jp/wp/ijusien)」をしてください。
<http://iju.city.nakamura.kochi.jp/wp/ijusien>



移住支援登録フォーム

step
02

お一人お一人のご要望に お応えするための NPO 面談

ゆかりの無い土地での新生活は何かと不安。NPO 法人「四万十市への移住を支援する会」のメンバーが新天地で新たな家族のようにサポートします。

step
03

物件契約や就業・起業相談など 移住支援をサポート

登録情報や面談でのご希望を元に、移住希望者と連絡を取り合って、移住から定住までをサポートします。

詳しくはお問い合わせください

NPO法人「四万十市への移住を支援する会」

〒787-0027 高知県四万十市中村天神橋 32
tel : 0880-35-2357 e-mail : iju@chic.ocn.ne.jp
<https://shimantocity-hataturun.com/>

四万十市では市と NPO 法人が連携して支援を行っています

NPO 法人 「四万十市への移住を支援する会」



(会員の皆さん)

- 移住支援
- 空き家のご紹介・ご契約

専任スタッフが移住支援のご登録から移住・定住後の支援を一貫して行っています。お住まい、お仕事、子育て、仲間作り等々、移住・定住に関わる相談に対応しています。メールやお電話での個別相談はもちろんの事、都市圏での移住相談会に参加しております。

四万十市



- 各種事業の申し込み

お試し住宅や移住体験ツアーなど、“移住する前に四万十市をよく知りたい”方のための各種事業をご用意しております。

連携



専任スタッフ



地域おこし協力隊

都会から移住し、これまでの経験を活かして地域活性化に取り組み、活動を通じて移住定住モデルを実践しています。



高知県移住サポーター
四万十市サポーター：20名

四万十市のサポーターは、移住者の受け入れをされてきた方や、移住経験者、農業、林業の従事者、広く地域との関わりのある方など、移住者と地域との橋渡し役として県に委嘱され、ボランティアで移住者のサポートをしてくださる身近な地域の相談役です。



ハローワーク

- ・職業相談
- ・求人検索や閲覧



中村商工会議所

移住希望者の起業についても相談対応します



移住後は交流会で楽しくわいわい

移住してきた者同士、日頃の思いを伝えあうことで共感の輪が広がります。交流会には移住サポーターや地元の方もご参加いただいておりますので、雑談の中で地元の方のアドバイスも聞くことができます。

暮らしに関する Q&A

Q 車は必要ですか？

A 路線バスやデマンドバスなどの公共交通はありますが、本数が少なく、夜間の運行が無かったりするので、通勤やお買い物など、車がないと生活は不便です。

Q 市内の気候はどうか？

A 太平洋に面しており、温暖で雨量も多いです。一方で晴れの日も多く、メリハリがある気候です。また、冬に寒波が来たときは積雪もあります。

Q 地域とのお付き合いはどんな感じですか？

A 地域によってまちまちですが、山間地域は特にご近所との距離感が近いです。都会での常識は田舎での常識ではありません。
「郷に入ったら郷に従え」という言葉もありますが、移住したら地域の一員として地域のお祭りや出役作業にも積極的に参加しましょう。

Q 出役作業って何ですか？

A 年に何回か、地域のみんなで草刈りなどの作業をすることを出役と言います。地域にもよりますが、地域の道は地域で管理しているため、決められた日に地域の方々が集まって作業をします。

Q インターネット環境は？

A 市街地と山間地域には光回線があります。それ以外の地域では ADSL です。移住する前によくご確認ください。

Q 物価は安いですか？

A 都会と違って店舗数も少なく、あまり安くはありません。特に燃料は輸送距離が長いので高いです。
野菜については、家庭菜園で自分で作ったり、ご近所の方からのおすそ分けなど、都会とは違った方法で手に入ることもあります。

Q 一般就職希望ですが、仕事はありますか？

A 職種を選ばなければ、仕事はあります。四万十市は幡多地域の中心に位置していますので、近隣の市町村への通勤も可能です。市内にはハローワークもあるので、求職活動はやりやすいと思います。

Q 困ったことがあったら誰に相談したらいいですか？

A 県外から移住した場合、生活の違いに戸惑うことも多いと思います。移住した段階で地域の代表者をご紹介します。また、移住支援の NPO 法人が移住後 3 年間は相談対応します。

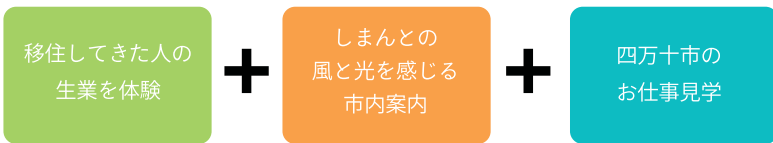
四万十市での生活を体感

四万十市では、移住前に四万十市での生活をご体感いただける
お試し住宅や移住体験ツアーをご用意しております

オーダーメイド型移住体験ツアー もっと気ままに楽しまんと Ordermade Tours

ほどよく街で、ほどよく田舎な四万十市の暮らして？

話に聞くだけでは伝わらない、しまんと暮らしを、もっと身近により具体的に感じていただくために、お一人お一人のご要望にお応えする、オーダーメイド型移住体験ツアーをご用意しました。



ご利用の流れ

- 1. お申し込み** 四万十市役所企画広報課またはホームページお申し込みフォーム・電話・メールにてツアー実施の20日前まで受け付けております。
- 2. ヒアリング** 電話またはメールにて、お客様のご要望をお聞かせいただきます。
- 3. ツアーを計画** ヒアリングをもとにツアーの受け入れ先との調整を行い、市内案内等の行程を検討企画します。

対象	四万十市への移住を検討されている方(1回のご案内につき3名様まで)
実施日	随時
費用	体験費用等無料
受付期間	実施日の20日前 ※内容によってはそれ以降でも可能
申込方法	四万十市移住支援ホームページお申込フォームから電話またはメール
参加条件	差支えない範囲での写真撮影・アンケートへのご協力

実際に暮らしてみることができます

お試し暮らし

「じっくり家を探す為に中期滞在したい」
「四万十市に移住したいけれど移住前にまちの様子を知りたい」
という方にぴったりのお試し住宅をご用意しました。
四万十市でも人気の下田エリアに位置し、サーフィンスポットとして有名な平野ビーチ・双海ビーチや、市街地まで車で10分程度と好立地にあります。(バスの運行もありますが、家用車の持ち込みや市内を回られる際にはレンタカーを借りられることをおすすめします)



施設概要

- (1) 場所…四万十市井沢
- (2) 住宅の構造…木造平屋(3DK)
- (3) 利用対象者…県外から四万十市への移住を希望する方※事前に移住支援登録及び移住支援のための面談を受けていただきます。
- (4) 利用可能期間…1～3か月
- (5) 利用料金…2万円/月(水道光熱費込)
- (6) 入居可能組数…1組

備品:冷蔵庫・洗濯機・掃除機・電子レンジ・炊飯器・テレビ・テレビ台・エアコン2台・ガスコンロ・室内照明等
※布団や食器等の消耗品はご用意ください。

注意事項

- ① 旅館やホテルではありませんので、生活に必要なものは入居者にご準備いただけます。
- ② ペットの飼育は住宅の内外を問わずできません。
- ③ 複数の応募があった場合は抽選となります。
- ④ 地域活動への参加をお願いします。

お問い合わせ先

四万十市役所企画広報課移住推進員

電話：0880-34-8866 メール：iju@city.shimanto.lg.jp

URL：http://iju.city.nakamura.kochi.jp/

四万十市移住
Facebook



四万十市移住
HP



町暮らし

四万十市の市街地には、スーパーやコンビニ、病院など生活に必要なものは半径 2 キロ程度の圏内にぎゅっとそろっている、田舎だけど田舎過ぎない、コンパクトな暮らしが可能です。



四万十市の街並みの様子



中心地域には大型商業施設や飲食店など、生活に必要なものはそろっています。



一條神社。一條氏の御所があった場所に建てられ、一條氏ゆかりの旧跡が残っている。

海暮らし

四万十市には、年間を通して多くのサーファーが訪れます。サーフィンを楽しみ移住者も数多くおられます。近隣市町村でのフィッシング、ダイビングスポットへのアクセスも可能です。

真っ青な太平洋での磯釣りは、多種の魚が釣れ多くの釣り人でにぎわいます。四万十川河口部もシーバスや赤目が釣れるポイントとして人気が高く、釣り好きには堪らないポイントがあります。



平野と双海の 2 カ所のサーフビーチが移住者にも人気のエリアです。



観光客も多く訪れています。

四万十市の基本情報

平均最高気温…21.9℃



平均最低気温…11.5℃



面積 632.29 平方キロメートル

人口 約 34,000 人

※2019年4月1日現在



もっと詳しく！！

四万十市の暮らしや
観光情報はこちら

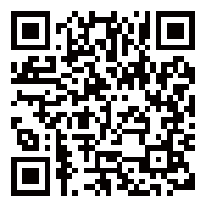
広報

市役所



観光協会

子育て



バス

鉄道

市民病院



山暮らし

四万十市の豊かな山々は、豊富で美しい水を湛えています。四万十川を大動脈とするならば、多くの支流がまるで毛細血管のように巡っている山間地。雄大な四万十川の恵みを受けた大自然を四季折々の変化とともに満喫できます。



移住者が取り組む馬搬の様子



四万十川ではカヌーや SUP などのアクティビティが楽しめます。

四万十市の支援制度

就業支援

支援制度

農業

■ 新規就農研修支援事業

研修受入農家等が実施する新規就農研修への支援として、予算の範囲内で補助金を交付します。

○対象者：以下すべての要件を満たす方

- (1) 市内に住所を有し、4月1日現在において18歳以上50歳未満の方
- (2) 新規就農希望者で農業を開始していないこと
- (3) 研修が終了後、市内において、就農計画の認定を受け認定新規就農者になること
- (4) 研修期間中、他に就業しないこと

○研修期間：原則1年以上2年以内

○研修手当：15万円以内/月

●お問い合わせ先：

《農林水産課農業振興係》TEL:0880-34-1117

医療支援

支援制度

■ 乳幼児及び児童医療費助成制度

0歳から中学3年生のお子さんの入院、通院にかかる医療費（保険診療対象分。ただし食事療養費を除く。）の自己負担分を全額助成します。

●お問い合わせ先：

《子育て支援課支援係》TEL:0880-34-1801

住宅支援

支援制度

■ 四万十市産材利用促進事業

市産材を使用し、一定要件を満たす木造住宅を新築する方に助成しています。

○助成金額：上限100万円

●お問い合わせ先：

《農林水産課林業水産係》TEL:0880-34-1118

■ 空家情報提供（空き家バンク）

移住者に賃貸する空家を用意しています。空き家の契約についてはNPO法人「四万十市への移住を支援する会」が、住宅所有者及び移住希望者からの相談対応や契約立会を行っています。

空き家バンクの詳細はHPにてご確認ください。

URL <http://iju.city.nakamura.kochi.jp/wp/archives/category/house>

●お問い合わせ先：

《企画広報課企画調整係》TEL:0880-34-8866

《NPO法人四万十市への移住を支援する会》

TEL:0880-35-2357

起業

■ チャレンジショップ

天神橋商店街の空き店舗で6ヶ月～1年間、お店を開業して経営のノウハウ等を取ってもらうための出店者を募集しています。

※チャレンジショップの詳細はこちら

○対象者：以下すべての要件を満たす方

- (1) チャレンジショップ卒業後、独立して天神橋商店街に新規開業する意欲のある方
- (2) 新規開業となる方、または現在の業種・業態の転換を図ろうと考えている方
- (3) 原則として小売業を行う方
- (4) 出店前及び出店中の講習会や運営会議などに参加できる方

○営業時間：10時～18時30分

（定休日・水曜日、不定休・日曜日）

○店舗使用料：月額8千円～1万円

（管理費・水道光熱費・共益費・組合費を含む）

●お問い合わせ先：

《天神橋商店街振興組合ちゃれんじshopTJB事務局》

TEL:0880-35-2019

■ 四万十市空き店舗対策事業補助金

市内商店街区域において、3カ月以上使用していない空き店舗で開業する場合、改修費用の一部を補助します。また、併せて高知県空き店舗対策事業補助金を活用することができます。

※対象業種は「小売業、飲食業、サービス業」であり、「昼間に営業を行うものです。」

○補助金額：上限37.5万円

○補助率：1/4

●お問い合わせ先：

《観光商工課商工・雇用対策係》TEL:0880-34-1126

■ 住宅改修への支援

四万十市への移住希望者に提供いただける住宅所有者がリフォーム工事をする場合、上限182.4万円の補助をします。

また、移住支援用住宅の小規模な改修について上限25万円まで補助しています。

●お問い合わせ先：

《企画広報課企画調整係》TEL:0880-34-8866



子育て支援

支援制度

■ 不妊治療費助成

不妊検査、不妊治療を受けられたご夫婦に、治療に要した一部費用を助成しています。

○一般不妊治療：1年度あたり5万円を上限とし、通算5年。

※ただし3年目からは医師が必要と認めたものに限る。

○人工授精：1年度あたり5万円を上限とし、通算2年。

●お問い合わせ先：

《健康推進課地域保健係》TEL：0880-34-1823

■ 保育料無料制度

同一世帯で満18歳未満のお子さんが3人以上いる世帯において、3人目以降の3歳未満の子どもにかかる保育料を無料にしています。

●お問い合わせ先：

《子育て支援課保育係》TEL：0880-34-1780

■ 保育所完全給食

全市立保育所で完全給食を実施しています。

●お問い合わせ先

《子育て支援課保育係》TEL:0880-34-1780

■ ファミリーサポートセンター（令和元年7月1日スタート）

子育て中の家族を一時的、臨時的に地域の人に応援する会員同士の相互援助活動（有償ボランティア活動）をしています。

●お問い合わせ先：

《子育て支援課企画係》TEL:0880-34-9007

■ 四万十市子育て世代包括支援センター「ベビはぐ」

保健師、助産師が妊娠届の受付から母子健康手帳交付時の面談、健康や子育てに関する不安や悩みの相談、情報提供を行っています。

●お問い合わせ先

《健康推進課地域保健係 子育て世代包括支援センター「ベビはぐ」》TEL：0880-34-8015

■ 四万十市地域子育て支援センター「ぼっぼ」

子育てをされている方に利用していただく施設です。主に保育所や幼稚園に通っていない就学前の乳幼児とその保護者が対象です。

親子ふれあい活動、子育て相談、講座等の実施。

●お問い合わせ先

《四万十市地域子育て支援センター「ぼっぼ」》

TEL：0880-35-3748

■ 子育て支援短期利用事業

児童を養育している家庭の保護者が疾病等の事由によって一時的にお子さんの養育が困難となった場合、市と契約した児童養護施設等で一定期間（原則7日以内）養育、保護することにより、児童及びその家庭の福祉の向上を図ることを目的として実施しています。

・利用料：世帯の課税状況、児童の年齢等による

●お問い合わせ先

《福祉事務所社会福祉係》TEL：0880-34-1120

■ 放課後児童クラブ（学童保育）

放課後や長期休暇期間等の昼間に保護者が就労等により家庭にいない小学生を対象に、適切な遊びと生活の場を提供しています。市内7学区（中村、中村南、東山、具同、東中筋、下田、西土佐）で実施しています。

●お問い合わせ先

《子育て支援課支援係》TEL：0880-34-1801

■ 放課後子ども教室

すべての子供を対象として、安全・安心な子供の活動拠点（居場所）を設け、地域の方々の協力を得て、学習支援や体験活動、交流活動等の機会を提供しています。市内8学区（八束、竹島、中筋、利岡、川登、藤岡、大用、西土佐）で実施しています。

●お問い合わせ先

《子育て支援課支援係》TEL：0880-34-1801

■ 学校給食

全市立小中学校で給食を実施しています。

●お問い合わせ先

《学校教育課学校給食係》TEL：0880-35-1330

各種環境

令和元年現在

■ 教育環境

保育園・幼稚園：21 小学校：14 中学校：12 高等学校：3 専門学校：1

■ 医療環境

診療所：23 一般病院：8（うち救急病院：0） 小児科：3 産科：1
歯科：19 眼科：2 耳鼻科：2

■ 情報通信環境

光（山間地域・国道56号線沿いの地域及びその近郊）、ADSL

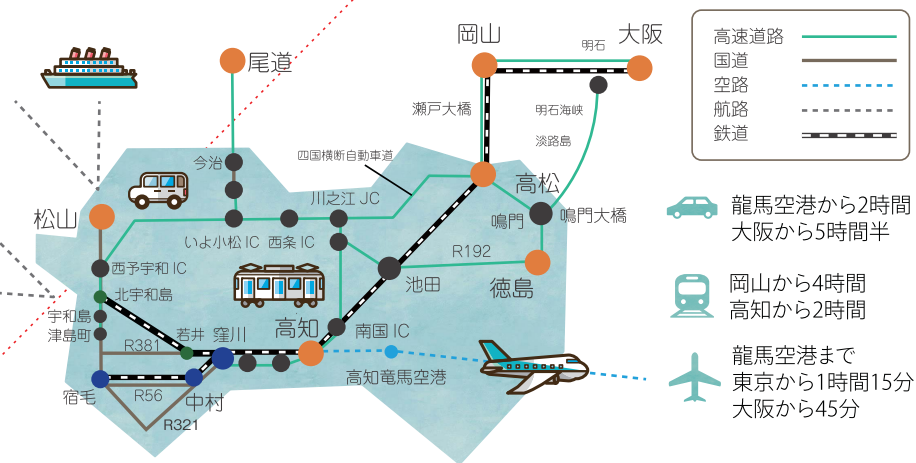
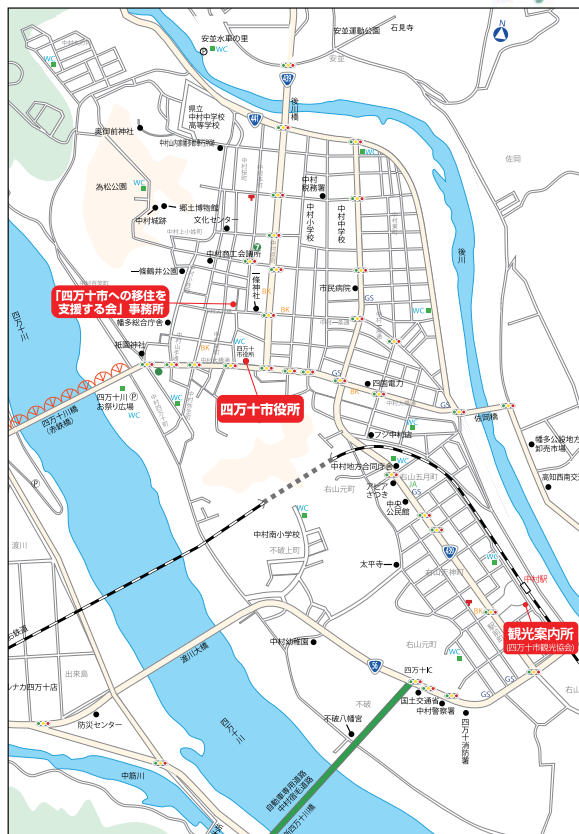


四万十市 マップ

高知県の西部に位置する四万十市。北西は愛媛県、東南は太平洋と面しており、中央部を四万十川が南下し川の恵みが太平洋にそそいでいます。各地に名所があるため、腰を据えて巡ってみるのもいかが。



[市街地マップ]



四万十市への移住に関するさまざまな情報は、NPO 法人四万十市への移住を支援する会ホームページ および四万十市ホームページ内の「移住支援」サイトでお知らせしています。

<https://shimantocity-hataturun.com/>

NPO 法人 四万十市への移住を支援する会 tel : 0880-35-2357 e-mail : iju@chic.ocn.ne.jp

<http://iju.city.nakamura.kochi.jp/index.html>

四万十市役所企画広報課移住推進員 tel : 0880-34-8866 e-mail : iju@city.shimanto.lg.jp